

セッション：『ケーススタディ』

演 題：訪問看護ステーションにおけるスマートフォン活用によるリエンジニアリング

演 者：木村 憲洋

所 属：高崎健康福祉大学 健康福祉学部 医療情報学科

---

2010年は、医療に関する情報化が新たな時代の幕開けであると感じている。iPhone や iPad、android をはじめとするスマートフォン及びモバイル端末の普及がこれを後押ししている。普及し始めた新たな ICT 端末は、医療従事者に新たな期待を生み出している。期待がある一方で、利用されているスマートフォンのシステムは各医療機関で実験段階の域をでていない現状がある。そこで、医療機関におけるスマートフォンの特性を利用したシステムの開発を医療機関の協力のもとに始めた。

スマートフォンを利用したシステムの開発には、医療機関にとってのシステム導入のメリットとスマートフォンの特性を考慮する方法がある。医療機関にとってのメリットは、医療サービスの質が向上することや業務が効率化するという質と効率を両立することである。一方、スマートフォンの特性は、携帯性やユーザビリティ、情報のアクセスに優れる反面、端末の処理能力とユーザビリティの限界があるといったデメリットがある。定型化された情報入力や軽い情報出力に関しては最大限威力を発揮することにある。

そこで、システムの開発を行うに当たり、情報が定型化しやすく、移動しながら情報を旧友しなければならない医療機関として訪問看護ステーションを選定してシステムの開発を行う。

訪問看護ステーションは、医療機関の中でも ICT 化が進んでいる医療提供施設である。私が以前に「マグネットステーション、訪問看護と介護、医学書院、2008.1-2010.3」で2年間インタビューした中でほとんどの訪問看護ステーションが電子的な訪問看護記録方式をとっていた。中には、記録を標準化しチェックボックス方式でほとんどの記録を解決している医療機関もあったほどであった。そこで、以前インタビューさせてもらった訪問看護ステーションの所長に協力を得てシステム開発の検討に入った。

協力いただいている訪問看護ステーションは、栃木県足利市にある「あおい訪問看護ステーション」である。こちらでは、クライアントサーバー方式の訪問看護支援システムを導入している。こちらのシステムは、看護記録や訪問看護療養費と介護報酬の請求を行うシステムであり、外部からのサーバーへのアクセスはできない。そのため、訪問し看護を提供した場合には、患者宅でメモを行いシステムへ入力し直している。また、訪問看護の記録を持ち歩くために印刷するため効率が悪いシステムとなっている。そこで、このような記録に関する不便をなくすためのシステムを開発することとなった。

開発のポイントは、記録のコード化による大幅な記録の手間削減である。訪問看護ステーションの多くの事業者とその従業者は、記録による残業に悩まされている。このため、記録がコード化され入力が簡便化される必要がある。いつでも何処でも閲覧できる必要がある。スマートフォンなどの機能であるカメラなどのハードウェアやアプリケーションを有効に使う。

このような目的から開発が始まった。システムが導入されるメリットとしては、患者宅での記録を完結することを目的とするため残業の減少、夜間の緊急時の訪問のために訪問看護記録を見るために、訪問看護ステーションへ寄る必要がなくなることを想定している。また、カメラ機能によるビジュアルでの報告書の作成、情

報共有とレコーダー機能、テレビ電話機能による医師など他の医療従事者との情報共有の方法が変わってくる。さらに、スマートフォンのアプリケーションの利用により、迷わず患者宅へ訪問することも可能となる。

現在、コンセプトがまとまりシステムの開発に着手し始めているが開発費の問題もあり開発のスピードに問題が生じている。もし、スマートフォンを利用したシステムの開発に賛同してくれる訪問看護ステーションや訪問看護サービスを提供する医療機関があれば、検討する研究会を立ち上げたいと思っている。

訪問看護におけるスマートフォン研究会

連絡先：PXF00603@nifty.ne.jp

木村憲洋

---

略歴：1994 年武蔵工業大学工学部機械工学科卒。1994 年～1998 年神尾記念病院、1998 年～2007 年今井病院、2007 年から高崎健康福祉大学健康福祉学部。

その他：日本医科大学医療管理学教室非常勤講師、足利短期大学看護学科非常勤講師、IT ヘルスケア学会理事。

著書：①病院のしくみ, 日本実業出版社, 2005、②病院経営のしくみ, 日本医療企画, 2008、③病院の仕事としくみ, ナツメ社, 2008、④病棟経営数字, 日総研, 2009、⑤最新医療費のしくみ, 日本実業出版社, 2010 など